

学生 ①

「海外研修で学んだこと」

当初の予定では8月10日出発だったのですが、出発当日に台風が上陸した関係で飛行機が欠航になり中国での滞在が1日少なくなりました。9日の夕方、中部国際空港で朝日大学の学生と合流後翌日の欠航を知り、10日は1日朝日大学の学生たちと中部国際空港内を巡っていました。その甲斐あって日本の学生同士でとても仲良くなることができ、あまり緊張せずに中国に向かうことができました。

初日、まず現地の空港に到着して第四軍医大学の学生ら5人と合流しバスでホテルまで行き、その後すぐに夕食へと向かいました。学生同士は初対面でさらに言葉が通じないためすごく緊張をしていましたが、向こうの学生達が気さくに英語で話しかけてくれたお陰ですぐに打ち解けることができました。

2日目は大学へと向かい歓迎式を開催して頂いた後、大学病院の見学をしました。第四軍医大学は3つの附属病院からなり、1日に約1,800人の外来患者さんが来院され、年間4,200件もの手術が行われている大きな病院です。特に小児歯科では1日に約250人の患者さんが来院され、待合室では多くの患者さんが待っていました。またECCの患者さんに対して全身麻酔を行い治療するなど、全身管理を行いながら歯科治療を行っている様子を見学できました。午後には総合診療科・小児歯科・口腔外科の3人の先生方の講義を受け、中国の歯科医療について話を聞くことができました。中国では日本と比べても歯科に対する医療水準は低く、日本のような定期歯科検診の義務は無いと聞きました。「両親が歯科医でも子供が砂糖と虫歯の関係について20歳になるまで知らなかった」とのこともあったそうです。

夕食には歓迎の祝宴を用意して頂きとても豪華な食事を楽しむことができ、また中国で有名な白酒というアルコール50度以上の非常に強いお酒を飲むことができました。先生方はとても気さくな人で、会半ばでは歌を歌ったり、ダンスを踊ったりとても楽しく有意義な時間を過ごせました。

3、4日目は西安の城壁、鐘楼、鼓楼や半波遺跡、兵馬俑など数々の名所を回り歴史を学びました。鐘楼の鐘と鼓楼の鼓は「朝の鐘、夕の鼓」として親しまれていました。城壁を見学した際には二人乗りの自転車で13.7キロもある城壁を一周することとなり坂先生、大森先生グループと競争をしてかなり体力が奪われました。

5 日目は大学内見学で、研究室や講義室、実習室を見て、こちらの学生がどのような環境下で勉学に励んでいるかを知ることができました。また支台歯形成コンテストが行われ、課題は下顎左側第一大臼歯の FMC 用の形成で、私は残念ながら朝日大学の学生に続いて 2 位でした。午後は、第四軍医大学の学生主催の歓迎パーティーが開催され、ゲームやダンス、ビンゴ等で楽しい時間を過ごせました。

6 日目は西安の下町や若者が集まる商店街に行きました。日本では見かけることのない不思議なお菓子や食べ物がありとても魅力的でした。夕食ではたくさんの西安料理を堪能し、続けて玄宗皇帝と楊貴妃の二人をテーマにした唐代の音楽による歌舞ショー「唐風歌舞」を鑑賞し、中国ならではの鮮やかで優雅な劇をみることができました。

最終日は、全員で昼食を食べ空港での別れとなりました。短期間であっても以前からの友人のようになっていたので、別れがとても辛く感じました。

今回の海外研修では、国際性や社会性等を学ぶことができ貴重な経験となりました。このような機会を与えて頂きました関係者の方々に心から感謝致します。

学生 ②

「歯科医療を通して中国に触れる」

台風 11 号の影響により、当初の予定から一日ずれての出発となりましたが、その分朝日大学の学生と深く交流できました。名古屋から上海を経由して約 5 時間。無事に西安に到着しました。多少の不安がありましたが、到着ロビーで温かく迎え入れてくださった第四軍医大学の先生、学生たちを目のあたりにして不安も疲れも消え去りました。大学訪問では、まず規模の大きさに驚きました。三つの付属病院があり、患者数も一日一万人超となるときもあるそうです。そのうえ病院内に入ってみると、13 階まであり、一つのフロアに専門の科がそれぞれ入っていました。見学させて頂いたのは、技工室、CAD/CAM、小児歯科、口腔総合科でしたが、特に印象に残っているのが小児歯科です。小児歯科のフロアにエレベーターで降り扉が開いた瞬間、人込みとざわつき、壁には花や木、アニメキャラクターが描かれていてほかの科とは違った印象を持ちました。ユニットの天井には一台一台テレビモニターもついていて小児歯科ならではの子供たちへの配慮が見て取られました。講義では第四軍医大学

での臨床実習の流れや小児歯科における早期小児齲蝕、顎顔面補綴について聞きました。どの分野においても医療が発達していない奥地では症状が重症化し日本ではなかなか見ることのない症例も多々あることに驚愕し、また中国における貧富や医療のIQの差を感じました。別の日には支台歯形成コンテストが行われ、大学内にあるデンタルミュージアムを見学しました。歯科にまつわる博物館というものは初めてだったので、歯科ユニットの移り変わりなど普段と違う視点から見た歯学はとても興味深いものでした。大学訪問以外に観光も充実していました。兵馬俑、楊貴妃が温泉に入ったといわれる華清池、敵から守るために作られた西安城壁などいろいろな場所で中国の歴史についても学ぶことができました。中でも、感銘を受けたのは兵馬俑です。偶然発見された秦の始皇帝の副葬坑とされる兵馬俑は、歴史の授業で触れたことがあり、実際に自分がその地に立っているのは不思議でした。7000以上の等身大の兵士や馬は一体一体顔が違い、今にも動き出しそうなその雰囲気圧倒されました。また、西安城壁では、14キロメートルもの城壁を二人乗り自転車で一周することに挑戦しました。私は中国の学生とのペアで、思った以上にハードで集合時間に間に合わず慌ててしまった場面もありました。しかし、自転車で乗りながら西安の景色を一望できたことや片言の英語でしたがコミュニケーションをとれたことで、最後に到着地点にたどり着いたときはちょっとした達成感がありました。こうして無事に海外研修を終えて、私はたくさんのごとに気づかされました。出発前まで日中関係における不安もありましたが、私が歯科医療を通して見た中国はそうではありませんでした。互いの考え方を尊重できるような方々で、日本語をマスターする学生がいるほど、日本への興味も強いです。今回、医療を学ぶ私たちは、国が違ってその志にあるものは同じであり、お互い共有していることに気づかされました。また、国によっては今必要とされている医療は少しずつ違い、自分も求められる歯科医療を常に模索し提供できるような歯科医になりたいと強く思います。今回、海外研修で本当に毎日が充実し、国境を越えて同じ夢に突き進む仲間ができました。この経験を将来に大いに活かされるようこれから邁進していきたいです。最後にこのような大変貴重な機会を与えてくださった先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

学生 ③

「初めての海外と国際交流」

私は初めての海外渡航先に中国を選びました。その理由は、私は歴史に興味があり、日本の歴史だけではなく、中国の歴史にも興味があったからです。そして、中国の歴史を学ぶことで日本と中国の交流を双方の観点からみることができると思ったからです。私の研修先である第四軍医大学は中国陝西省西安にあり、中国の内陸部に位置します。西安は昔、長安という都があった所で、歴史的な建造物やその時代を代表するような遺跡がある街です。

その西安にある第四軍医大学の病院は、各階ごとに診療科があり、その各科ごとに診療台の仕切りの壁の色が違ったり、軍人専用の診療室があったりしました。技工室では、女性の割合が8~9割と日本の歯科技工士と比べても、女性が多いことが分かりました。

学生の臨床実習は、実際に患者を診療する形になっており、学生に指導をする先生は、学生2人に対して1人つくことになっていました。学生が病院の臨床実習に出るまでは、知識試験、病院の医療水準を保つための技術試験を合格しなければなりません。特に技術試験では医療水準を保つことが求められるため、大変だと思いました。医療水準を保つということは、先生が患者に対する治療と学生が行う治療との差ができないようにすることで、学生の意識も高いと思いました。

また大学内には、研究室や講義室、実習室、口腔歴史博物館がありました。実習室では支台歯形成コンテストが開催され、第四軍医大学、朝日大学、明海大学の学生あわせて21名で行われました。支台歯形成する歯は、下顎左側第一大臼歯でした。ユニットの使い方が分かりませんでした。隣の席の第四軍医大学の学生が教えてくれました。バキュームが壊れていたため、その対応法も教えてくれました。支台歯コンテストの結果、私は3位になることができました。3位は何人かいましたが、私はもともと実習に自信がなかったため、このコンテストで自信を持つ事ができました。口腔歴史博物館には、昔から今日に至るまでの歯科に関する道具や資料を見ることが出来ました。博物館の内容を電子化し、閲覧できるモニターがあり、センサーによってページをめくる仕様になっていました。

観光は、中国でも一番古い時代の遺跡であると言われている半坡遺跡、唐の皇帝である玄宗とその妃である楊貴妃が入った温泉である華清池、秦の始皇帝の墓を守るために作られた兵馬俑、一周14kmある西安の城壁、唐の時代の観光地である曲江池、三蔵法師にゆかりの

ある大慈恩寺、西安の歴史がわかる陝西省歴史博物館、阿倍仲麻呂の記念碑がある興慶宮公園、弘法大師にゆかりのある青龍寺など、様々な歴史的な場所を訪れました。

学生との交流は最初、うまく話ができるか不安でしたが、実際に話をしてみるとお互いが話を伝えたい気持ちと話を理解しようとする気持ちがあったので、ぎこちなさがありました。楽しく会話が出来ました。また、朝日大学の学生とも仲良くなることが出来ました。

この研修を通して、日本以外のことを自分で実際に見ることができ、とても貴重な体験になりました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました宮田理事長始め、安井学長、中嶋歯学部長、草間学生部長、大川教務部長、藤澤国際交流委員長、ならびに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

学生 ④

「海外研修で感じたこと」

私が明海大学に入学を希望した理由の一つに、海外研修制度があります。今回中国西安にある第四軍医大学口腔医学院の海外研修に参加することができ、私の人生においてとても貴重で充実した時間を過ごすことができました。この研修に参加したことで歯科医師になるという同じ志をもつ友人が新たに 10 人もできました。この貴重な出会いを今回の研修で終わりとせず、生涯大切にできたらと思います。

中国での滞在期間は 7 日間あり、そのうち 2 日間は口腔医学院の院内および校舎の見学をさせてもらい、残りの 5 日間は西安の歴史的遺跡や博物館を見学することができました。

始めに、第四軍医大学で学んだことを報告します。第四軍医大学は広大な土地を持つ中国の中で 2 番目に古く歴史ある病院です。敷地内には口腔医学院のほかにも他分野の施設の棟が建っていてとても広く、ほぼ車による移動でした。口腔医学院は 13 階まであり、今回の訪問では 2 階の総合診療科、9 階の小児歯科、13 階の技工センターを見学させて頂き、まずは患者さんの多さに驚きました。説明によると 1 日 1 万人、ちょうど今回の研修期間中でもある夏休みの小児歯科には 250 人の患者さんが来院するそうです。また、病院見学をさせてもらった日の午後には 3 時間ほどの講義を受けました。そこで、中国の歯学部プログラムと

小児の歯内療法、顎顔面補綴について学びました。日本の歯科大学は卒業までに6年間かかるのに対し、口腔医学院では5年で卒業するそうです。また第四軍医大学の学生は授業料がすべて免除され、毎月給料も支給されるそうです。2度目の訪問では実習室で中国の学生とともに支台歯形成コンテストを行いました。部位は下顎左側第一大臼歯で、模型の人工歯は日本のものより硬く感じました。その後、学校内にある歯学博物館を見学しました。そこには、歯学に関する歴史的器具や人体の骨格標本、あらゆる動物の頭蓋骨まで並んでいてとても興味深く感じました。

次に西安の街の観光についてです。西安は歴史的建造物が多い土地でした。私たちが観光したのは半坡遺跡、華清池、秦の始皇帝兵馬博物館、西安城壁、曲江池遺跡、西安大雁塔、阿倍仲麻呂記念碑などです。華清池は、唐の幻宗が楊貴妃のために作った温泉離宮であり、建造物がとても美しく自然豊かで中国独特の雰囲気味わうことができました。兵馬俑博物館では教科書で何度か見たことのある兵馬俑の本物を目の前で見ることができ感銘を受けました。そして、全長14キロメートルある西安城壁を二人乗り用の自転車でサイクリングしたことが特に印象に残っています。

最後に中国での滞在についてです。私は研修に出発する前、環境と食事に少々不安がありましたが、現地の空気は思っていたほど悪くなく、むしろ湿気が少なく日本より生活しやすい気候でした。食事はもちろん中華料理でした。すべて辛いものだと予想していましたがどれも食べやすくおいしかったです。第四軍医大学の先生方との食事会の際に、朝日大学の学生が覚えてきた中国の歌を披露して会場を盛り上げていて、これは私たちの準備不足で唯一反省した点でした。

今回、無事に学生奨学海外研修を修了することができました。これも第四軍医大学口腔医学院 趙学長をはじめとする多くの先生方ならびに第四軍医の学生たちのきめ細やかなご厚意のおかげであると深く感謝申し上げます。また、明海大学と朝日大学の学事課の方々のご尽力、ご助言に厚くお礼申し上げます。さらに、引率教員である明海大学歯学部の方先生、朝日大学歯学部の方先生に感謝いたします。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださいました宮田理事長、安井学長、中嶋歯学部長、草間学生部長、大川教務部長、藤澤国際交流委員長に深く感謝申し上げます。

学生 ⑤

「海外研修で得たものと中国での交流について」

初めに海外研修を終わって感じた事は、今回研修に行かせて頂き本当に良かったという事です。今回の研修は全ての先生方、朝日大学や中国の学生、その他全てに恵まれていたと思います。前泊、初日共に台風のため行動する事が出来ませんでした。残りの時間を勉強し、話をし、楽しむ事が出来ました。

2 日目に西安に到着した後、現地の先生、学生と合流し食事をした際に話をしました。その際、話す言語は英語でしたが、どちらも第二言語である為、ゆっくりと話す事も多く、それがしっかりと意思疎通をしながら話す事に繋がり、より早く強い絆を築けたと思います。

3 日目には、病院を見学させて頂き、その後、①現在の中国の教育と臨床実習、②小児歯科、③顎顔面補綴についての講義を受けました、①については、学習の為の stage が 3 つに分けられていて、最初の stage は実習の前の勉強、2 番目の stage は実際の患者さんと接する臨床実習、最後の stage は総合的なテストを行い、臨床実習では補綴物などのノルマが定められている等、技術の質を保つ為に様々な努力をされていました。②では、一般の診療所では日本と違い、基本的に保険という制度自体が無く、麻酔にもお金がかかる為、麻酔をせずに治療する事が多く、さらに、乳歯は生え変わる為、虫歯に対して親の意識も低く、かつ乳歯の根管治療は側枝などもあり、完全に治らない事が多く、放置される事で齲蝕が重度に進行しているケースも多々あるとのことでした。全顎的な齲蝕の治療には全身麻酔下での治療が行われる事も多く、予約が7ヶ月先まで入れられていると聞きました。③では、顔面の欠損に対して3Dデータをとり、それを反転、一部加工して位置関係や形を決めていました。インプラントを併用し磁石で補綴され、近くで確認しないと分からない程綺麗でした。

その他に、病院を見学させて頂いて一番驚いた事は、VIP の患者さんは一般の人とは別の階に、さらに軍関係者の人はその科ごとに専用のブースが用意されていて、例えば小児歯科では、一日に300人が訪れますが、軍関係者の子供は優先して診療を受けられる様になっていた事でした。また、小児歯科では、1997年から予防の教育のみをしていましたが、現在では予防を行う場所と、予防の教育の為の部屋が作られていました。さらに、技工室では通常の方法で作成される補綴物の他に、CAD/CAM の機械でもブリッジ等が作られており、日本と近い水準で補綴物が作られていました。

別の日には、西安の城壁や秦の始皇帝のお墓である兵馬俑、華清池など、中国の様々な歴史に触れさせて頂きました。さらに、歴史以外にも物価の違いに驚かされました。観光中、いわゆる出店で飲み物を購入した際、あちらの学生に「いくらで買った？」と問われ、10元(約180円)と答えた所、別の場所では3元(約50円)で買えると話され、その他お土産でも場所によって値段が3倍以上も異なる場合もあり、あちらの学生に交渉や買う場所、値段において助けられた事も多かったです。

今回の研修に当たり、自分が一番不安に思っていた事は、英語を話す事が難しいという事でしたが、あちらの学生とゆっくりと話ができたり、単語だけでも、表情とボディーラングージで表現する事で意思疎通をする事が出来、話をするにあたって、あまり言語は壁にならないと感じられ、今までの自分の英語や他国の人と話す事に対しての苦手意識を少なくする事が出来ました。

その為、自分にとって今回の研修は貴重な経験となり、とても成長できたと思います。このような機会を作って頂いた関係者各位に感謝いたします。本当に有難うございました。